

勿凝学問 366

この期に及んで、また、姑息な選挙対策として社会保障を利用しようしている例の政党
社会保障と税の一体改革案くらい、4月に出せよ

2011年3月9日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

HP上で、またまた、長くなったので、こっちに、引っ越しを。

ゼミの掲示板に学生が・・・

>経済を見る眼「消費税と福祉国家」『週刊東洋経済』2011年3月12日号

先ほど読ませていただきました。

>「この付加価値税の発明こそが、西欧諸国の福祉国家を生んだとも言える」

租税体系の在り方が国家の形を決めるというのは、とても納得のいく仮説だとあらためて実感します。そういった意味では、「再分配」という見方を通して、物事を眺めてみるのはなかなか面白いことだと、少しずつ思えてきました。

相続税を上げろ、所得税を上げろ、などと主張する人たちも、この財源調達力の違いを数字で見せつけられたらぐうの音もでないですね。

Ⅱ巻のはじめににも書いているように「社会保障問題とは結局のところ財源調達問題に尽きる」と言い続けてきた僕から観れば、給付を論じることは財源を論じることであり、[財源を論じることは給付を論じること](#)——当たり前のことだ。こういう考え方の僕を、社会保障国民会議に入れたりするから、僕はあの会議に[社会保障の見積もり書](#)の作成を要求し、社会保障国民会議の報告書がそのまま見積もり書になったわけだ¹。

¹ 「社会保障国民会議」（2008年1月29日—2008年11月4日）のみならず、「高齢者医療制度に関する検討会」（2008年9月25日—2009年3月17日）での試算要求にも、「社会保障問題とは財源調達問題である」という僕の考え方の癖？が現れているので、ご参照あれ。

勿凝学問 211 [別にこだわりがあるわけではない高齢者医療制度改革案——高齢者医療制度に関する検討会への試算要求](#)

「医療費の将来見通しに関する検討会」（2006年12月27日—2007年7月11日）では、

ということで、今展開されている「社会保障と税の一体改革」が、4月に社会保障の改革案を出し、6月に社会保障と税の一体改革案を出すということが、実に姑息に見えるわけだ。4月に社会保障の改革案を出す時に財源としての税の改革案も出すことくらいできるだろうし、そうするべきだ。ということを君らが理解すれば、以前、僕が知人に出した次のメールの意味が分かるとおもう。

僕の中では、やはりどうしても、統一地方選前後の4月に社会保障の方針をまとめ、6月に税との一体改革案を出すという、この期に及んでも、社会保障を延命策に利用しようとする彼らの姿勢が許し難いんだよな。世の中には、[財源を抜きにして社会保障を語る社会保障学者](#)ばかりだったから、この国は今のようになったわけで、彼らからみれば、社会保障の夢（方向性）だけを語るという方針は有りうるんだろうけど、僕の中では、絶対にあり得ない。社会保障を語ることは財源を語ることだからね。

この4月に、社会保障を大幅に充実させることができるかのような幻想をまき散らし、その上で、社会保障のためだったら消費税の引き上げも支持すると期待を抱かせて、再び裏切ることを、確信犯的にまたやろうとしている。

僕が、「我々が次世代に残した未来」として言っているように、中負担中福祉とか高負担高福祉なんて、もうこの国では実現できず、中負担だったら低福祉、高負担でも中福祉くらいしか実現できないことを、正直に言わないとダメなんだよ。それが負担増実現への近道でもあるんだけど、彼らは姑息な選挙対策として、また、社会保障を利用しようしている。

付録——2月2日、日本医師会主催の医療政策シンポジウム録より

会場から「消費税をあげて、国民は幸せになるのですか？」

「講演の中で話したように、この国の分というものを考えると、消費税をアップし

僕は試算要求を出していないが、僕が話したいろいろなことを事務局が試算してくれて、議論が一気にエビデンスベースになった。

勿凝学問 60 [「医療費過大推計の法則」が成立する理由\(りゅう\)——厚労省陰謀説のウソ](#)

勿凝学問 74 [医療政策担当者と、いち医療研究者の齟齬——所得、政策、医療費の因果関係をめぐって](#)

社会保障国民会議の前に、社会保障構造の在り方について考える有識者会議報告書「21世紀に向けての社会保障」(2000年10月)、社会保障の在り方に関する懇談会報告書「今後の社会保障の在り方について」(2006年5月)などがあった。その報告書は本当に立派なものだったのだが、国民はその内容をすぐに忘れてしまう。当時、その記憶が僕には強くあった。

ないと大きな不幸が待っていて、消費税をアップすれば小さな不幸ですむか、うまく中福祉を実現できれば、幸せの世界に持ち込めるわけです。そのくらいが日本の国力から考えて分相応。増税は大きな不幸を小さくするという意味で、消費税アップは国民を幸せにします。・・・先ほども言いましたが、この国は、四の五の言わずに増税をしなければダメという状況に当の昔に達していて、今では、時既に遅しの感もあるわけです」。

1月17日のHP

昨日に続きどうもです。

昨日お知らせしました週刊東洋経済1月15日号の、山口先生の文章の次のページのことをお伝えし忘れました。

『「中福祉中負担」は幻想 出でよ、負担増語る“悪役”』
悪役かあ、そういえばタイガーマスクって最初は悪役でしたよね。

失礼いたしました。

うん、ここに書いてあること、その通りなんだよね。僕が先週、政府サイドにいる人たちに言ったことは、「**最近の報告書は、国民に期待を持たせすぎ。後々面倒なことになりますよ**」ということ。この国は、すでに、中負担中福祉、高負担高福祉の実現は無理で、ご紹介の『週刊東洋経済』に書いてあるように、「民主党は税や社会保障の改革で「中福祉中負担」の国を目指すと言うが、幻想ではないか」というのは正しい。

でっ、僕の言う「持続可能な中福祉」というのは、実は、負担は相当に高い中福祉なんだよね（笑）。

- [「”持続可能な中福祉”という国家像](#) 『週刊東洋経済』2010年7月28日号

もうすぐで、ILO協会 [『世界の労働』掲載の原稿](#)には、冒頭に次の文章があります。

この国の将来は、仮に北欧諸国のような高負担を実現できたとしても、国民一人一人はそれらの国々のように高福祉を享受できるわけではなく、分相応な未来としては、「高負担で中福祉」、「中負担で低福祉」というような選択肢しか残されていない。残念ながら、すでにそうした社会しか、我々は、次の世代に残すことができないのである。

んっ？ 悪役になるのは、俺かっ？

タイガーマスクの仲間に入れてくれるんなら、少しは考えても良いけどねえ。。。

おまけ

2月19日

日経の論説委員さんは、ほんっとタフだねえ。

- [年金の抜本改革なしに消費税増税なし](#)

厚労省内には、この作業を「(納税者への) 請求書づくり」と呼んではばからない官僚がいる。

悪いな、僕は社会保障国民会議が創設された今から3年前から、社会保障の見積書をつくらうと言っているんだよね。

- 「[生かすべきは社会保障の再分配機能——理想社会の実現に向けて財源論議を](#)」
『[Vision と戦略](#)』2008年6月号

まあ、僕は、請求書という言葉は品がないから、見積書と呼んではいたけどね。請求書という言葉を使った人ってのは、ディフェンスが甘いと言えば甘い。僕も何度か、請求書という言葉を使おうかと思ったけど、これはやっかいなリアクションが起こるかもしれないと思って、意識的に控えた。

でっ、今日から始まることは何かって？

知らん——次の八つぁん、熊さん話にでも聞いておくれ。

- 「[日本の社会保障と財政](#)」『世界の労働』2011年1月号（第61巻第1号）

そして、次の問題をどうするんだろうね。お白砂に利害関係者を呼んで、仕分けの時のような公開ショーをして、それで済ますつもりかね。

- 勿凝学問 333 [手続き民主主義と社会保障のシミュレーション——社会保障国民会議の場合](#)